

# 学位論文審査の要旨

学位申請者	河野 由 比較社会文化学専攻 2017年度生		論文題目	バレエ動作の運動学的特性と知覚特性との関係性:審美性に着目して
審査委員	主 査:	水村真由美 教授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	新名 謙二 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	石口 彰 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	太田 裕治 教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	阪口 豊 教授 (電気通信大学大学院)		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (学術)	(Ph. D. in Exercise Science)		<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
				<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について

## 学位論文審査・内容の要旨

本論文の目的は、バレエの動きの審美性を、運動学的特性と鑑賞者が感受する知覚特性によって定量化し、動作の審美性に影響を与える運動学的特性および知覚特性を検証することであった。論文は主に2つの実験研究から構成された。第一の研究では、バレエの表現を伴う上肢動作を対象に、審美性が異なる動作の運動学的特性および多様な評定用語により評価した印象特性を明らかにし、両者の関係性を検討した。第二の研究では、基本的な技術が求められる動作として「アラベスク(arabesque)」と呼ばれる下肢挙上動作を対象として、研究1と同様の手法で、審美性が異なる動作の運動学的特性および印象特性を明らかにし、両者の関係性を検討した。本論文の結果から、運動の大きさ・速さ、関節の回旋運動は、本研究が対象としたバレエにみられる2つの動作に共通する運動学的特性であり、「好き」、「良い」、「強い」、「高い」、「動的」、「リズムカルな」、「加速的」、「バランスのとれた」、「メリハリのある」の印象は、バレエという舞踊動作の中で、その種類を超えて共通する印象特性であることが示された。

審査では、舞踊という身体動作を審美性という観点から、鑑賞者が感受する印象とダンサーの運動特性との関連を分析した研究はほとんどないことから、その新規性および独創性が評価された。一方、第一回審査では、単に運動特性と印象特性を単相関で分析するのではなく、得られた多くの解析指標の因子構造からの検証が可能ではないかという指摘があった。そこで筆者は、審査委員からの指摘を受け、運動特性および印象特性の中から、審美性得点が高い群と低い群で有意差がみられた解析指標を用いた因子分析により、それぞれの構造を詳細に検討した。これらの修正を審査委員会は妥当なものとして高く評価した。公开发表における質疑も簡潔明瞭であり、本論文の成果と今後の課題を、適格に理解していることが明らかとなった。なお本論文の成果の一部は、すでにバイオメカニズム学会誌およびMedical Problem of Performing Artistsという国際学会誌において、日本語および英語の2本の主著者論文として成果が公表されている。

以上の点から、本審査委員会は、本論文を博士論文としての水準に充分達していると判断し、博士(学術)、Ph.D. in Exercise Scienceに相当するものと認めた。